東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 2 月 20 日

イスラームと文明

私たち皆が時に現在のムスリム社会が十分に発展していないことについて言及し、そのことを問いかける説話を耳にしたことがあると私は信じています。この、遅れているという点は本当に、彼らの信仰における不統一さや不十分さからもたらされるものなのでしょうか？今日はこのテーマについて、歴史的な例を挙げつつ検証してみましょう。

最初期のムスリムたちはその全てのエネルギーを、創造された世界、つまりは創造主の意図を理解する為に費やしました。イスラームは彼らに、信じることが困難で理解するのが不可能な教義を与えることはありませんでした。だからこそ、この時代学問を好む人々は定着した信仰により、無慈悲な競い合いにさらされることはありませんでした。預言者ムハンマド（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）は、知識を求めることが男女問わずムスリム皆の義務であることを告げられているのです。そのお方の道を行くムスリムたちも、アッラーにそのお方にふさわしい形で崇拝行為を行うことが、正しい考えや知識の追及によって可能となることを把握していました。

預言者ムハンマド（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の「アッラーは治療法を創造されることなくして病を創造されることはない」というお言葉から出発し、解明されていない治療法を研究する必要があると彼らは理解しました。このようにして医学の研究は速度を増していったのです。キリスト教たちが欧州で、伝染病を神の怒りだと見なしていた時期、ムスリムたちは病気の発生した地域を隔離することでその病気と闘っていたのです。

クルアーンの「そして水から一切の生きものを創ったのである。」（預言者章第３０節）という言葉を読み、その意味を把握しようとすることで、人々は生命体やそれらの器官の発達のしくみを研究し始めました。それによって生物学が生まれたのです。

クルアーンは創造主の偉大さの証人である星たちとその動きの規律正しさを示しています。そこから考えを得たムスリムたちは天文学や数学の分野に進みました。地球が自らの軸を持ち、惑星群が太陽の周囲を周っているということを示すコペルニクス理論は、教会の示した無慈悲な反応のため、欧州では１６世紀になってからようやく広まるようになったのです。しかしムスリムの学者たちはこのしくみの原理を９世紀、１０世紀には見出していました。そして教会の反応とは逆に、不信心者であるという非難を受けることもなく、地球が球状であり、軸を持ち回転しているという結論に達することができたのです。さらには緯度や経度も計算していました。

これらに加え、さらに多くの科学分野において優れた研究が行なわれ、成果が示されてきました。そしてそういった努力が行なわれる際には、人々は預言者ムハンマドのこのハディースを思い起こしていたのです。「誰であれ、知を得る為に出発するものは、アッラーはその人の天国への道を容易とされる。」「学者たちのペンからしたたるインクは、殉教者たちの血よりもなお尊い。」「学究のために死ぬ人と預言者たちの間には、ほんの一段階の差しかない。」

親愛なる兄弟姉妹の皆様。キリスト教たちのヨーロッパでは王たちですら、入浴することを好ましくない贅沢と見なす一方でイスラーム国家では最も貧しい者の家ですら、入浴することのできる一画があり、あるいは町のほとんど全ての街区でも公衆浴場がありました。９世紀にはクルトゥバで３００の公衆浴場があったことが伝えられています。勿論これは、「清潔さは信仰からのものである」というハディースが要求するところなのです。

キリスト教の民衆が聖職者たちによる現世のくらしを軽視する警告に悩まされていた時期、イスラーム教徒は物質生活の美点の喜びを味わうことと精神世界の義務を果たすことの矛盾に苦しめられるようなことはありませんでした。預言者ムハンマド（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）は「アッラーはそのしもべたちにおいて慈悲深さと気前のよさの跡を目にすることを望まれる。」と仰せられています。人は無垢な状態で生まれてくるという考えを主張し、また人が地におけるアッラーの代理であることを教える教え（イスラーム）に出あった中世のスペインの人々は当然、波のようにイスラームに押し寄せたのです。本来、「剣の道によるイスラームへの改宗」という物語の背後にあるものはこれなのです。

イスラームを偉大なものとしたのはムスリムではありません。反対に、イスラームがムスリムを高めたのです。しかしいつの頃からか、イスラームは人々にとって自覚を伴ってたどるべき人生設計ではなくなり、一つの習慣、風習となってしまったのです。そしてその時、文明の基盤にあった創造への活力が失われ、そのかわりに貧困や不毛さ、文化的衰退がその地位を占めることになったのです。イスラームの教えを自覚して自らのものとし、生活において実践し、新たに立ち上がる集団となる道、この自覚を持つ新たな世代を育成する努力を払う人々となる道においてアッラーがあなた方を助けてくださいますように。